大正四年六月二十一日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）

東京帝國大學經濟學會

經濟論叢

第二十四卷　第四號

昭和二年四月一日發行

論叢

古代の港……教授 文學博士 三浦周行

倶樂部稅論……教授 法學博士 神戸正雄

ミルの經濟學概念……講師 文學博士 米田庄太郎

歷史學派の先驅考としてのリチヤード・ジョーンズ……東北帝國大學教授 經濟學士 堀經夫

時論

日本の對支好意政策の限界……教授 文學博士 矢野仁一

海軍制限に關する米國の提議……教授 法學博士 末廣重雄

說苑

ブルゲン氏の諸社會主義評論……教授 法學博士 田島錦治

產業としての林業の本質……教授 林學士 經濟學士 平田憲夫

パンタレオニと經濟學基礎概念……經濟學士 松岡孝兒

雜錄

印度の雨……教授 法學博士 財部靜治

（禁轉載）

ブルゲン氏の諸社會主義評論（譯三）

田島錦治

第三章　生産の進歩

第一節　諸生産力の發達の觀點に依る純集産主義の不適當

個人的利潤なる鼓舞を缺く所の集産主義は自由主義の如き有力なる「産業進歩促進の彈性」を有するや否や。此質問は至て重要なり。何となれば若し社會主義が其夢む所の公正なる分配に向て生産を犧牲にするに於ては、公民全般を通して諸物質的條件の著るしき改良を見るを得ずして、唯一般的平凡及び薄き給養を來すに過ぎざればなり。

社會主義者は其主義に依る「生産の方式的組織」(une organisation méthodique) が現在資本主義

の社會に於ける種々の弊害、卽ち重複する業務、虛僞なる費用及び管理、失業、資本階級なる寄生物、軍事費及ひ公債費の如き不生產的費用を除去する時は、富の非常なる增加あるべしと思考す。彼等が國家直營の國民的生產の巨大なる機制の整齊なる事業に措く所の信用は强ちに全然非難すべからずと雖も、吾人は恐るべき未知數が斯の如き樂天的考察を阻止するものあるを見る、何となれば吾人は彼の管理に委任せらるゝべき最上の智慮に就て、及び彼の整調的任務を行ふが爲に準備せらるべき手段に就て疑を抱けばなり。

之に反して又社會主義の長所とも思はるゝ點は勞働者は彼等の勞働の熟練度及び勉强度に準じて酬ゐらるゝが故に最善の努力を爲す樣に勵まさるゝこと是なり。蓋し自己の集產團體(la collectivité)の爲に働くとの知覺を有する人々は他人の私的產業に雇使せらるゝ單純なる賃銀勞働者よりは其生產に多大の利害關係を有すべきことは一般に吾人の容認し得べき所なり。

前述する所と同一公平の見地より吾人は「發明者が最早發明特許の利潤を得ず又は企業者として其發明を利用するを得ざる時(卽ち集產制の下に於て)は總ての發明は跡を絕つならむ」と言ふことを差し控ふべし。蓋し工業界に於ては、勞働者の研究の成功が特別の利福を彼に與へざる場合には、餘暇及び健康を研究の犧牲に捧ぐる者少なかるべし。然れども人が其天賦の才能を發揮せんとする自負心及び本能的欲望は、科學者生產企業者及び單純なる手工匠等の發明的天才を鼓舞することあ

るを疑はず。況んや名譽の表彰は亦有益なる發見を爲せる本人を酬ゆるに足るものあるに於てをや。

然れども「物質的利益を生ぜずして少くとも名聲を博し得る發見」を外にして考ふるに、夫の競爭を缺ける行政的生產制（集產制の下に於ける生產を指す）は果して、（一）課業の配布及び原料の使用に就ての愼密なる改良、（二）對人的勤勞の組織の微妙なる行屆、（三）生產物の質を善くし、此等を購買者の嗜好に適せしめ、諸費用を節減し、及び生產額を增加すべき雜多なる計畫、を行ふに好適すべきことを期待し得べきか。茲に提起する質問は主として管理（la direction）に關す。卽ち集產制の社界に於て管理は競爭制の下に於ける同樣なる强力、同樣なる進步的精神、同樣なる注意を有し得べきやを知るに在り。

旣に國又は株式會社の目下經營する產業に向ては集產制下の管理は一見それ等現時の制下の管理に劣らぬ如く思はる。例へば郵便電信橋梁道路鐵道の事業、國又は會社に屬する鑛山業の如き有給役員に由りて支配せらるゝ最大行政組織に於ては、其事業が競爭の下に置かるゝこと無き時に於て、業務執行は整齊にして、往々嚴格に、且進步は絕えず自から行はる。果して然らば何故に社會化する產業（les industries socialisées 集產制度下の產業）に向て同樣の事は行はれざるべきか。請ふ之を次に述べん。

此兩制度の間には今余輩の論ぜんと欲する點に關し一の重要なる差異あり。工業及び運輸の諸大會社の定款は全然貴族的(アリストクラチク)にして且彼等の行爲は專ら利潤獲得の目的に由て支配せらる。國營の企業に於ける管理者も亦株式會社の其等の如く利潤獲得の手腕ある者を拔擢し得る方法に由りて任命せらる。之と異にして若し集產制下の生產は選擧せられたる人に由りて支配せら丶に於ては、前述の場合と等値の保證を得べき望は甚少しとす。何となれば諸勞働者は(1)生產物の改良に(2)費用の節減に(3)最も生產的なる機械の使用に向て自身直接の利害を感ぜざるべければなり。例へば織物工が完全なる機械を用ふる時は二メートルの布を織り、通常の機械を用ふる時は同時間に僅かに一メートルの布を社會に供給し得るとせば、若し彼の勞働時間が同樣に支拂はる丶ならば、彼に向ては何れの機械を用ふるも殆んど相同じ。一產業所に屬する勞働者が生產の進步及び生產物の賣捌に就て直接なる利害關係を有せざるに於ては、彼等が頭領を選擧するに方り果して「事業の經營及び指導に向て最良の才能を有する人」を選擧する樣に彼等を留意せしめ得るや甚だ疑はしとす。彼等は亦緻密なる監督を甘受すべきや。彼等は彼等の慣習又は利益に反する內部の諸改革を許容すべきや。彼等は彼等の一部を轉職せしむべき新機械を喜んで採用すべきや。是故に國家の權威をして衰耗せざらしむる爲には少くとも諸管理者が彼等直接の配下の意思に左右せられざる如き任命方法を採用するを要すべきなり。

尙茲に性質を異にする無數の種類の企業あり。農業工業水運陸運商業等卽ち是にして、是等は現今は自ら責任を負ふ所の企業者に由りて管理せらるれども、集產制に於ては官吏の支配に移るべきものなり。此場合に力の損失は莫大なるべし。蓋しそれ〳〵限られたる範圍に於ける此等の企業の管理の下に於て尤も大切にして他に代り得るものなき力は個人的利益なるもの、興奮なり。夫の自作農の刻苦する耕作、商人の熱烈なる執務、生產費を益々減少する工夫に向ての不斷の探究、華客の嗜好に益々適合すべき生產物の搜査、從業者に對する周到なる監督、凡そ斯の如き農工商家の懸命に盡す所の不屈不撓不斷の努力は、他なし、彼は其富及び名聲が一に懸りて其勤勉及び堪能に在るを知るに起因す。而して此努力は一切の生產（前記限られたる範圍に於ける此等の企業といふに對していふ）卽ち巨大なる製造場より些細なる仕事場、狹隘なる田畝及び小賣倉庫に至る迄をも包容する所の官僚萬能的の組織の下に、何等の代償なく犧牲に供せらるべきなり。

集產制を弱める原因としては、前述せる活動力の減退より尙一層恐るべきものあり、卽ち費用の莫大なることこれにして、今此點を力說する要あり。集產制の巨大なる行政的管理は此制度が以て勞働者及び無能力の利益に供せんと誇稱しつゝある所の「資本主の餘剩價値」の全部又は其最大部分を、一般經費として社會が蕩盡するを敢てする程に巨費を要すべし。有給官吏の全隊の維持に要する費用は固より大なりと雖も、これのみの計算にては不充分なり、尙此外に「綜合さる

る行政」が、生産運搬及び販賣の公務を行ふに方りて避くる能はざる所の一般的浪費を計算に入るゝを要す。官吏は、特に彼等が選擧に由りて其地位を得たる場合には、企業の危險を自身に負擔する企業者と同樣なる(1)節約の注意(2)嚴密なる監督(3)費用節減に適當なる方法の搜査に向ての機敏等の諸德を決して有せざるべし。

要するに此鈍重にして濫費多き行政は、國民生産力の增加を來すべき節約の政策を、撓まず續行するに向て充分なる威權をも、又氣力をも有せざるべし。既に吾人現時の國家の「選擧に由る諸權力」(les pouvoirs electifs)は公債の償却に向て規則正しく準備するを知らず。況んや集産制の國に於ては、消費さるゝ資本の償却及び再生産のみならず、併せて其增加を確實にする爲に、諸選擧に對し彼等の勞働の報酬の上に控除を强課すべきに於てをや。實に集産制下に於ては、何人も國民的貯蓄に就て個人的利益を有せざるべし。集産制下の國民的貯蓄をして個人的社會の私的貯蓄の額に均しくならしむる爲には、公民の總體並に彼等の代表者の腦裏に、社會奉仕の念(le sentiment du devoir social)が最大困難の犧牲を供するを辭せずといふ程度に向上するを要すべきなり。

勞働者の側に就て之を見るに、彼等は唯平均强度の勞働時間に由る報酬を受け、生産用具及び原料に對して爲さるゝ節約に就て考慮せらるゝことなきが故に、彼等は機械を虐使し又は原料を

濫費するを慎むことに就て利害を感ぜざるべし。勿論彼等は各人の幸福は社會の純收入の增加に因るを知るべく、彼等は皆社會連帶 (la solidarité sociale) なる高尙なる思想を有すべしと認めらる。然れどもたとひ此思想は俊秀の士をして一時の奮勵又は大なる貢獻を爲さしむべしと雖も、勞働者の全體をして濫費を防ぐに必要なるべき「此絕えざる自己省察 (ce contrôle incessant sur soi-même) を爲さしむるを得ざるべし。蓋し尋常人に向ては彼の努力より唯至て微小なる利益を其手に收め得るに過ぎざる如き場合には、到底斯の如き献身的行爲を期待するを得ず。

晩近の社會主義者の賢明なるや、彼等は其夢想する未來國に於て社會機關の原動力として富に對する無我の心 (le passion désintéressée du bien)、及び一般人類に對する愛情を餘り多く其計算に入るゝことなし。彼等は人の性質の變化の假定の上に其未來國を建つることを斷念す。然れども其時更に承認するを要するは、生產者が改良せる機械器具の使用及び此等の物又は原料の節約に就て利害關係を有せざる如き價値の方式の上に建てられたる社會(集產制の社會を云)に於ては事務は沈滯し、財貨は浪費せられ、生產は衰退し、終に一般の困乏を招くに非ずんば、凡庸なる貧社會となり了るべきこと是なり。

シェッフレー氏は彼の犀利なる批評に於て常に多少奬勵の言辭を雜へつゝ、集產主義の此弱點を指摘するを忘れざりき。[1]

1) Schäffle, *Die Quintessenz des Sozialismus.* 5 Aufl. Gotha 1878. S. 65 und 66.
同上佛譯 Malon, 第二版 p. 53 及ビ 54.

集產主義の原理を忠實に保持する人々に向つては彼等は競爭價格より結果し來る所の不平等を全然排斥するが故に、此制度に立歸るといふ事は問題となり得ず。さればとて、集產制を維持するに於ては、如何にして「富の一層良き分配を行ふ爲に生產を犧牲にす」との非難を免がれ得べきや。生產者が嚴密なる節約に就て其見得べき及び直接なる利害關係を有せざる所以は、彼等が其使用する所の生產方便物を自身に獲得せず（國より給與せられて）、且其所有權を有せざるに由る。さればとて、此等を勞働者の組合財產(la proptiété corporative)とすることは「辛ふじて社會に開放した許りの私有制度」を再建することゝなるべきが故に、是れ亦忠實なる集產主義者の承認するを敢てせざる所なるべし。生產者が平均より優れる生產を齎らす所の物質的生產要素を使用することに利害關係を有せざる所以は、彼等が此等生產要素を使用するに由る所の生產力に應じて酬はれざるが爲なり。さればとて、斯の如き方法にて彼等に報酬を與ふることは、公權に委任するに無償にて及び任意にて生產方便物を分配する權力を以てする所の行政的生產制度の下に於ては、不正義たるを免がれざるべし。

此等の矛盾は之を脫却すること困難に見ゆれども、而も其試みは爲されたり。請ふ次節に於て之を述べん。

第二節　ジョーレー氏の地方分權的集產主義[1]

ジョーレー氏は個人が利益を感ずるは唯其個人的形態を有するときのみなるを知るが故に、集產制の構造には地方分權及び自治（l'autonomie）の必要なることを完全に理解したり。氏は其著「產業組織の假案」(Esquisse provisoire de l'organisation industrielle)に於て既に行政的生產の制度と組合的生產の制度（le régime de la production administrative et celui de la production coporative）とを區別したり。謂ゆる組合的生產の制度に於ては國民全體は常に集產的資本の名義上の所有者たるに止まり、產業上の機械道具の實際の所有權及び使用權は之を定まれる諸條件の下に職業者の諸集群（les groupements professionnels）に委托するなり。

ジョーレー氏は、國民的產業の一支類(une branche)の組織を以て全領土內に於ける同種の勞働組合（syndicats）の大なる聯合體と爲さんと欲す。氏の考に依れば各組合（サンディカー）は其使用せんとする生產用具の準所有權（la quasi-propriété）を有償にて得べきものとするが如し。蓋し生產用具の新調及び完成の準備を爲すは組合の任務にして集產團體としては與からず、而して組合は生產用具の代償として——勿論原料の買入に就ても亦同樣なるが——其生產物の價格の中に當然含まるゝ資本償却に供せらるべき部分（la part d'amortissement）に充當するなり。一の組合が新式の機械

1) "Collectivisme decentralisateur de M. Jaurès."

を採用せんと欲する場合には集產團體の政府に上申して勞働切符の前貸を請求し、又は其組合員の醵出を求むるを得。斯くして得たる切符を以て新機械を据付けたる後は、其生產物の量に應じて整齊的に償還を爲し了るなり、但し此償還には利子を含まざるは勿論なり。尙附言すべきは、工業家又は發明家は其事業を遂行するに要する資本として諸人の貯蓄せる勞働切符を其手に集むるを得べく、斯くして彼の個人的企業の下に彼の實驗を續行するを得べし。而して此實驗が成熟の時期に達したるときは、此企業は國の經濟的行政の下に歸屬すべきなり。

吾人は前述せる如き產業組織には工業の進步を促がすべき部分あることを認む。實に各產業所は其生產の總てを公共倉庫に納付し、公權の附する價格決定に服從す。然れども共同法律（la loi commune）に由りて定めらるゝ價値單位は爾來工業の各種類に於ける平均生產力の勞働時間たることを得、從て各勞働者は彼の實際費したる勞働時間に拘はらずして、其公共倉庫に持參する所の生產物に應じて支拂はるべきなり。

例へば工業の實際の狀況に於て、麻布一メートルが社會的勞働の四時間を通常要するとき、詳言すれば原料たる麻絲の生產に二時間半、機械の消耗費に二分一時間、製織に一時間を要すと假定すれば、政府は如何なる製織の產業所（即ち（établissement にて此場合に工場を指す）にても苟も麻布を持參するものに對しては一メートル毎に四切符を支拂ふべし、併し此價格付けの標本に合する物に就て斯く支拂

ふなり（物品の質に上下あれば價格付けも亦上下す）。政府は支拂たると同じ價格を以て小賣するが故に、賣價は常に原價に同じ、而して此事は啻に生產物の全體に就てのみならず、個々の品物に就ても亦然りとす（此點は第二章に述べたる純集產制と頗る異なり、注意すべし）。若し一の工業的集群が自から費用を投じて獲たる改用機械の使用に由り、一時間の勞働を以て二メートルの麻布を織り、原料を經濟的に使用したる爲に從來麻絲に對して五切符を要したるを四個半にて足ることゝなり、且又大量生產の爲に新機械の損料としては一メートルの麻布を作る毎に切符の四分一を取除くを要するに過ぎざる如き場合には、該集群は一時間にて織上げたる二メートルの麻布を公共倉庫に持參して切符八枚を受取り、而して其中に就て二枚を一時間の勞働に對する報酬として勞働者に與へ、殘り六枚の內原料に向ての四個半と機械の損料に向ての二分一（即ち前記一メートルの麻布に對して四分一切符なれば二メートルに對しては二分一となる）との合計五枚の切符を控除すれば切符一枚は該集群の利潤となるなり。之と反對に、何れの產業所にしても、舊式の機械を使用し又は原料を濫費するが如き處に於ては勞働者は平均より低き報酬を受け、及び償却に向て割合に多額の控除を爲さゞるを得ざるべし。

上述の如き制度の下に於ては、進步の原因は杜絕の厄を免がるゝ如く思はる。各工業組合は新式の製造方法を發明せんことを工夫し、重大なる犧牲を拂ひても尙ほ最良の原料及び最も完全なる機械を手に入れんと奮勵努力すべし。彼（工業組合以下同じ）は生產用具の維持に、石炭瓦斯及び原料の節

用に注意し屑及び副産物の利用を考究すべし。彼は企業の擴張に由りて一般費用を節減せんと勉むべし。且彼は其主長に最も手腕あり及び最も經驗に富める人を委任するに至るべし。實に組合勞働者（un travailleur associé）が企業の善良なる取締に向て感ずべき利益は、單身に利潤又は損失の危險（リスク）を負擔する所の發明家又は企業者のそれと同樣に旺盛なるを得ざるは勿論なり。蓋し責任の感念は多數人に分るる程弱くなるものなり、而して諸生産組合（les sociétés cooperatives de production）は多かれ少なかれ取締の不充分といふ缺點あるべし。然れども尙ほ、組合員等の小集群の限られたる範圍に於ては、各人の利益は彼をして單純なる賃銀勞働者より大なる注意を以て、自から進んで費用の減少及び生産物の增加に協力せしむるに足る程明白なりとす。而して此の如き性質の組合の取締に就て之を見るに、たとひ權威の不充分といふ缺陷はあれども、現時の企業に當然附隨する幾多の商業上の困難が廢除せらるゝといふ特別の前提の下に於ては、亦資本主義企業の取締に比して技術上劣ること無きを得べきなり（蓋しジョーレー氏の集產制の社會に於ても、生產物は皆公共倉庫に納入し、其販賣は公權之を行ふが故に、此前提の如く商業上の諸困難は除かるゝなり）。且前述の組合に於ける個人的又は組合的なる特別の利潤は總ての實現せる進步に因り直接に結果せるものにして、進步が一般に普及し從て公權の檢定する社會的平均の價値單位の昂上を見る時迄は、此利潤は持續すべし。

前述せる所は蓋しジョーレー氏が「工業的組合の組合員は個人的醵出に因て彼等の生產用具を

完全にすることに大なる利害關係を有すること」を吾人に示すに當りて抱ける氏の意見なり。卽ちそれに依り『彼等は彼等の生產力を進め、尋常生產用具（l'outillage normal）を規準として公定せる價格より下に生產費を減少し、斯くして彼等は此差額を利益す、而して此利益は進步の精神に對する賞與と謂ふを得べし……』氏は語を續けて曰く『此賞與は國が價格公定の規準と爲す所の尋常量の勞働（la quantité normale de travail）と改良せる生產が事實上要したる比較的少量なりし勞働との間の差なるべし』『諸勞働者の提供したる勞働量は彼等の作り出せる生產物を以て計量せらるべし』由て吾人は次の如く論定す、價値計量の單位は平均生產力の勞働時なるべし、而して此勞働時は通常の生產方便物を以てする平均强度の勞働の生產に由りて測定せらるべし。[1]

然れども茲に種々の疑問あり。曰く如何にして組合財產と集產主義とが互に調和し得べき乎。曰く組合財產は組合員等の閉されたる集群に依り嫉妬的に保持せらるゝ利潤の不平等を惹起せざる乎。曰く若し組合の生產に對して指揮を下すべき中央整調機關なくば果して能く勞働單位に由る定價をして競爭に由る價格に代らしむるを得べき乎。ジョーレー氏は自由的生產主義をも又閉鎖的組合の主義をも採らざるが故に此等の牴觸を避け得たり。其要は次の如し。

勞働の組織は決して其國民的統一的性質を失ふべからず。又絕對獨立なる組合ありて、或る特權受有者の利益の爲に、國家の委托したる生產的資本を私占するが如きことあるべからず。國の

1) Jaurès, *Organisation Socialiste*, août 1895, p. 134, 145, 156, 157.

規律(la discipline nationale)は選擧せられ最高權力を賦與せられたる中央會議(un Conseil central eiu)に依りて維持せらるべし。大なる工業集群の各は選擧せられたる特別會議を有すべく、而してこれは中央會議と地方各部(les sections locales)との間の仲介たるべきものなり。これは主として生產の諸中心地の廢止すべきものを決定し、又は生產用具の全部に就て新調すべきものを決定す。故にこれは組合の所有權を異常に制限すべき大權力を有すと謂ふべし。此等の中央官廳は總ての生產を指導監督し、各集群に向て其遂行すべき事業を指定す。

最後に且最も重要なるは次の事なり。生產用具の所有は總て各工業集群に委托せらるゝも亦社會共有たるを失はず、何となれば、各集群は其所に勞働を提供せんと欲する總ての公民に對しては同一の權利及び同一の利益を許與すべくして、決して現時の多數の產業組合が新來者を雇傭的勞働者の地位に置き得るが如き權能を有せざるべければなり。斯の如くにして諸集群に一時起ること有るべき諸不平等は永續せざるべく、且其等は其等の專屬的性質を失ふべきなり。

前述ジョーレー氏の草案は或る點を曖昧に附せり、例へば組合は其機械又は其建物を賣却し又は其等を組合員の個人的使用に充つるの權利を有するや否やは明白ならず。但し此草案の示す所は夫の獨立せる諸職業集群が彼等の間に自由に談合せらるゝ所の契約の外に何等の連絡を有せざる不統一なる制度(un régime anarchique)に就てに非ざるは毫も疑を容れず。否、組織は國家的

にして大體に於て中央集權的なり。是れ開放せる產業組合制(un régime de coopératives ouvertes)と謂ふべく、詳言すれば、生產者は價格公定の法律に、組合の自由加入及び其組合員間の平等を認むる規則に、及び中央官廳の權力に、全然服從すべき制限內に於て、工場は勞働者に屬し、蓋し又(吾人が直ちに後それを見る如く)鑛山は坑夫に屬し、田畝は農夫に屬する制度なり。故に是は寧ろ國の集產主義(le collectivisme d'État)にして、組合的社會主義(le socialisme corporatif)に非ず。

ジョーレー氏は生產資本に集產的性質を維持せしむるに就て多くの努力を爲したれども、茲に起る一の疑問は、彼の半自治的組合は、たとひ前述せる如き中央公權の規制ありとも、尙ほ集產主義の本質に反せざるやの點なりとす。ジョーレー氏亦之を豫知す。氏は曰く『茲に余は純共產主義者が「是は非常に有產者的計畫にして資本主義の强き色彩を帶ぶ」との批評を耳にす。且彼等は直ちに「經濟的進步を目的とする此小なる賞與の制度は卑陋にして且不要なり」と主張す。蓋し彼等の言は疑も無く正當なり』と。

實にジョーレー氏の組合は最早本來の辭義に於ける集產制に非ずと考へられ得るものにして、卽ち其下に多少制限せらるゝ諸集團が、又は諸人でさへもが彼等の生產方便物を買得し、工場機械及び原料の所有者となり、其利用する生產用物の不平等なる爲に勞働の平等量に對して不平等

なる生産物を獲得するを得るなり。抑も近代の社會主義の根本の主義は從來 "*A chacun par igal*" ou "*Suivant ses besoins*"「各人に平等に分て」、又は「彼の欲望に從ひて分て」なれども、若し此主義は既に改まれりとすれば少くとも "A chacun suivant son travail personnel"「各人に彼の個人的勞働に從ひて分て」の主義は存すべし。之に反して茲には勞働者は「生産物の何たるに拘はらず平均强度の彼の個人的勞働時間に應じて」に非ずして「彼の勞働時間が如何にありしやに拘はらず彼の生産物に應じて酬ゐられ、其狀たる恰も彼の生産に寄與する重要度は、彼の勞働の固有の性質よりは寧ろ彼の就業せる産業所（工場を云ふ）の組織の狀況に多く從屬するが如くになさるゝなり。

然れども此「開放せられ且公定價格の法律に服從する所の産業組合」の方式は、たとひ勞働の報酬の不平等を採り入るとも、若し此不平等が唯一時的にして、而かも進歩の條件を成すに於ては、之を顧慮するを要せずと謂ひ得べきなり。蓋し理論家は此方式を排斥するを得べし、然れども他の者は此を資本主義の制度に優るとなすべし。何となれば(1)此は勞働者に保證するに彼の勞働の生産物に等しき價値の報酬を以てするに由り、少くとも生産上に於ける私的資本への貢納は止み、及び(2)生産の合理的組織に由り失業及び貧困の弊害は除かるればなり。

此辯明は「富の集産主義的分配の嚴正主義」を奉ぜざる社會主義者を籠絡するに足る、特に汎役

所主義又は官權萬能主義を餘り多く好まざる人々を然りとす。

前述せるジョーレー氏の案出せる組合の方式は不幸にして實行し得べからざるものと審査判定せられたり、請ふ次節に之を詳述せん。

第三節　ジョーレー氏の集産主義方式の批評

生產發達の觀點に於て、ジョーレー氏の方式は特別の利潤なる引力に由りて發明の進歩を促がす如く見ゆれども、尙ほ不充分なり。實に其利潤は只生產物の分量を多くすべき發明のみに歸し、性質を善良にするを專らとする改革者は之に與からず。諸生產者は分量に應じて報酬を受くるを以て、若し彼等が新しき改良方法に由り、從來知られたる生產物の製作に必要とせる時間を短縮せば、彼等は餘分の利益卽ち賞與を獲べきも、若し彼等が一の新生產物を發明せるとき、例へば彼等が瓦斯白熱燈のマントルを毀れぬ樣にする方法を發見したるときは、彼等は何等の利潤を收むるを得ざるべし。何となれば彼等は此新種類の勞働に就て一勞働時の平均生產力を定むべき計算要素を提供する最始にして且單獨の組なればなり。若し一箇の硬質マントルの製作が一通常マントルの製作と同じく平均一時間の勞働を要せば、報酬は同一なり。若し一層短き時間を要せば、發明者は唯通常マントルの製作者と同列に置かるゝ條件に於て、其短き時間丈の利潤を受

くるに過ぎず。若し一層長き時間を要せば、發明者はそれ丈損失すべく、唯彼の工業が新規のものと考へられ、之に對し「通常の平均」が適用せられざるとき此損失を避け得べきのみ。

然らば何故に異なれる率が製作物の性質に應じて定めらるゝを得ざる乎といふに、若し此新品を作る唯一の工場に於て、一時間の勞働にて出來上れる一箇の品物（卽ち硬質マントル）に對し二枚の切符を與ふれば、集產制の方式は全く倒壞せざるを得ず。卽ち未だ新しき評價方法に向て何等の基礎を有せずして、勞働時間に由る價値計量の方式を斷念するなり。元來性質は分量の如くそれ自身數字を以て評價せられず。故に消費者の需要に從ひて上下する所の競爭的價格なくんば、如何にして公權は專斷なしに性質の異なる諸物品を數字を以て評價するを得べきや。蓋し優秀なる生產物の製作が通常の生產物の製作に比して一層多量なる勞働時間を要せば、公權は定率を改むることなくして一層大なる報酬を與ふるを得るは勿論なり。然れども需要及び供給に由りて定まる價格の制度に復歸するに非ざれば、改良せる生產物に向て高率評價の方法を適用することは之を斷念せざるべからず。

蓋し營利心は固より技術進步の唯一の原動力に非ざるを以て、前述ジョーレー氏の方式が發明者に向て利潤を確保するに充分ならずとの缺點は幾分か之を寬假するを得べし。然れども此方式は其改正せんと欲する方式（純集產制の方式を指す）の如く、諸平均の計算に免がれざる紛糾、不確定、專斷

等に由り、啻に不完全なるのみならず、實行し難きものなり。余輩は此點に關し單純なる集產主義に由て示されたる諸困難を吟味したるが、此等はジョーレー氏の集產主義の下に於ても亦同樣に多きを見るなり。

請ふ余輩をして彼の主義の實際の運用如何に就て審査するを得せしめよ。彼の主義に依れば、諸勞働者は彼等の生產物に應じて報酬を受く。行政廳は工業の同じ支類[1]に屬する總ての產業所(工場のこと)[2]に就て、最も多く慣行せらるゝ技術的條件の下に於て、(1)最も多く慣用せらるゝ生產用具(2)勞働一時間に於ける原料の平均消費量及び(3)同時間に於ける生產用具の平均消耗量を以てする一時間勞働の平均生產力を計算したり。之に由りて各種類の生產に向ての平均的社會勞働の一時間の生產物標本 (le produit-type) は決定せられ、從て各生產物の中に含まるゝ平均勞働時數は算定せられたり。次に此率を適用するには人が政廳へ持參する生產物の性質を審査すれば足る、何となれば生產上必要とする社會勞働時は一般に精良品に向てよりは劣等品に向て小なればなり。此上にて公權は生產品を納入せる組合に勞働切符を以て其價格を支拂ひ、組合は更に生產者に之を分配す。斯の如く勞働者の生產物に由りて附せらるゝ所の彼の報酬は彼の勞働の固有(モチマイ)の諸性質並に當該企業の共同諸條件に從屬す。

上述諸平均の計算は固より複雜なれども、純集產制の場合よりは簡單なる如し。何となれば茲

1) une même branche d'industrie.
2) l'ensemble des établissements.

には彼場合に於ける如く別々に局在する各經營[1]に就て一々其平均を定むるを要せざればなり（第二章アンゼン、ヅカズヴイール等炭坑に就て述べたる所を參照すべし）。然れども余輩は今迄故意に問題の一面を差し置きたり、卽ち余輩は（1）人の生產せる資本の生產上の力に就て說きたれども未だ（2）自然的生產要素の不同なる力に就て述ぶる所なかりしなり。

たとひ或一の工場は其利用する原動力又は運輸に向て多少の便益を與ふる所の自然的條件の下に在りと雖ども、製造業及び運輸業に就ては嚴密の意味に於て（1）の觀察のみを以て滿足するを得べし（姑く自然力を度外に措き單に資本の生產力に就て說き得るの意味）。然れども農業に於て、及び鑛山業に於ては自然的要素は確かに最も重要なる役目を演ず。茲には勞働の生產物は土壤又は下土の自然的條件の如何に從ひて變動す。故に正義を犯すことなしには勞働者の生產物に從ひて彼等を酬ゆることは不可能に見ゆ。然れども若し諸生產者が最早彼等の生產物に從ひて酬はれぬ時には、若し彼等の特種の生產が彼等の生產方法又は生產用具の優秀なるより來れる時は如何に彼等は酬はるべきや。

上述の問題に就てはジョーレー氏は格別意を惱ますこと無きもの丶如し。氏の社會構造の下に於ては唯重に工場（l'usine）の勞働者に就て說けるのみにて、土地の勞働者に對しては氏は疑も無く後日の研究に讓りて今之を取扱ふことを見合すもの丶如し、何となれば氏は唯吾人に語るに、「自作農の土地所有權の許容すべき」を以てするに止まり、農業勞働の報酬方法は、其經過時代の

1) Chaque exploitation particulière.

狀態の下又は其終極の狀態の下の孰れに就ても毫も之を吾人に示すことなければなり。然るに氏が鑛山の勞働者に就て語るを聞くに、氏は明かに彼等の報酬は彼等の個人的勞働の實際の時間にて計量せらるべく、斯くして彼等の間に石炭の性質の良否又は採掘の難易に基因する所の豫先の不平等 (inégalité préalable) あることなしと宣言するなり。

斯くしてジョーレー氏は不正義 (l'injustice) の弊を避け得たれども、氏の意見は爲めに退歩したり。たとひ氏は茲にも尙ほ「勞働者の諸集群に委任せらるゝ鑛山業」に就て說き、純集產制の如き政府公營に就て說かずと雖も、氏は其案出せる組合方式(le système corporatif)の獨創性及び優秀性のすべてが係る所の「價格決定の方法」(le mode de taxation) を此等勞働者に適用することを斷念す。氏は生產物に應ずる報酬の方法を止めて時間に應ずる報酬に復歸す。而かも氏は斯くゝる農夫及坑夫をして生產方便物の進步及び生產方法の改良に銳意せしむるに甚だ不適當なるを自認す。是れ少くとも氏の說の一部破產なり、集產主義の總ての方式の障害物卽ち經濟的地代の法則 (la loi de la rente économique) への退却なりと謂ふべし。

然らば茲に何等かの手段を以て、自然條件の不平等より勞働者を不當に利し又は害することなくして彼等をして生產方法を改良する樣に自から銳意せしむる如き報酬方法を彼等に適用するを得ざるか。請ふ余輩をして眞面目に之を考慮せしめよ。

余輩は先づ社會が土地又は鑛山を無償にて經營者に交附し、而して彼等は唯自費を以て建物機械道具家畜肥料及び雜原料のみを得るを要すと假定す。此場合に生產者をして生產の進步に鋭意せしむる爲には、而かも同時に彼をして其交附されたる土地が最も肥沃に又は其鑛山が最も豐富なるより偶然又は特惠の利潤を受くることなからしむる爲には生產上に寄與する資本の部分と自然的優秀條件の部分とが明かに區別せらるゝことを必要なりとす。故に政府は耕地の各部又は各鑛區に就て、經營の平均的諸條件の下に於て、詳言すれば、耕地に就ていへば、人が建物圍ひ排水灌漑等の處理に關する通常の勞働を爲したること、及び人が其外に同じ種類の土地の上に於ける耕作の多數に就て慣用せらるゝ肥料機械及び耕作方法をそれに適用したることを假定して、平均强度の勞働一時間の生產力を計算するを要す。若し果して此種類の無數の土地臺帳が正確に成立せば生產者は彼の勤勉、彼の發明、彼の改良方法に因りて彼の持分の經營に就て豫め計算せらるる平均量に優れる生產物を得たる時には、彼は餘分の利潤 (profit extra) を得。

例へば茲に甲乙二級の土地あり。甲級地に於て人が通常每ヘクタールに合理的と考へらるゝ分量の「二百枚切符を値ひする肥料」を投じ百時間の勞働を費やすときは人は平均三十ヘクトリットルの小麥を收穫すとすれば、生產者は一ヘクトリットルに就き十枚切符 (300÷30) の報酬を受くべし。若し怠惰又は拙劣の農夫が百五十枚切符を値ひする肥料の劣れる分量及び不完全なる諸生

産用具を用ひ同時間の勞働を以て、唯二十ヘクトリットルを收穫するときは、彼は二百枚切符を受くるに過ぎずして、其中の五十枚丈が百時間の彼の勞働の報酬なり。（何となれば百五十枚は肥料の價なればなり）

乙級地卽ち前者より劣れる土地に於て人は平常毎ヘクタールに六十枚切符を値ひする肥料を投ずるを例とし、前と同樣百時間の勞働にて平均八ヘクトリットルの收穫を得どすれば、此小麥は生産者をして毎ヘクトリットル十枚の代りに二十枚の切符を受取らしむべし（即ち總生産量八ヘクトリットルに對し百六十枚にして其中より肥料代六十枚を差引くときは百枚となり卽ち一時間の平均勞働に對し一枚の割なり）。然れども同級の土地に於て賢き農夫が百二十枚を値ひする肥料を投じて同樣百時間働き十五ヘクトリットルを穫るときは、彼は通常の平均生産量に勝る所の彼の生産量に由り著るしき餘分の利潤を得べし。卽ち彼の受くる三百切符（15×20）の內肥料代百二十を差引きたる殘り百八十枚を彼の百時間の勞働の代價として受くるなり。

斯の如くたとひ行政廳は一ヘクトリットルの小麥に對し一方には十切符を支拂ひ他方には二十切符を支拂へども、若し兩方より提供せらるゝ總量が同じ場合に於ては、政廳は總ての小麥を同じ價格卽ち一ヘクトリットルに付き十五切符なる平均價格にて賣らざるべからず。此平均生産費を以てする價格決定に由りて地代は消失す。消費者は現今の如く最大生産費に由て決定せらるゝ價格を以て總ての小麥を買ふ代りに、唯平均生産費を之に支拂ふに過ぎず。最良地を耕やす所の農夫は毎ヘクトリットル二十切符の代りに唯十切符を受くるに過ぎず、從て彼等は其耕やす所の

土地の自然的優秀性に由る餘分の收入を得ることなし、換言すれば彼等は何等土地の地代(レント)を利得することなし。而して社會自身も亦地代を收むることなし、何となれば社會は一方に於ける或一定量の生産物に就て贏けたる利潤は之を他方に於ける部分に就て損失したる所を塡補するに供すればなり。卽ち單に勘定の事務あるのみにして利潤獲得の事務なし。

前述の計畫の總ては理論上は之を承認し得べしと雖も、實際に於て土壤及び下土(鑛脈所在の)の各區に於ける經營(農業及び鑛山業)の平均的諸條件の下に於ける勞働の平均生産力を算定し、且此生産力に影響する所の絕えざる諸變動に追及して平均生産力の算定を修正するを得べきや。行政廳は果して妄斷及び偏愛の弊に陷ゐることなく、忿懲せる抗議を受くることなく、前述の諸計算を正確に成就し及び修正する所の難事業を擔當するに堪ふるや。佛蘭西に就て言へば、其包容する所の一億五千萬筆(parcelles)の各筆に就て、其互に紛糾錯雜せる無數の平均率の計算を爲さんとせば頭腦は茫然自失すべし。則ち其結果や知るべし、何人をも滿足せしめ得ず、而して經濟行政の府は損害を蒙りたりと自信する民衆に由りて絕えず顚覆せらるべし(蓋し選擧に由りて屢々改造せらるゝをいふ)。

茲に他の方法あり、それは土地又は下土(鑛山)を職業者集群に賃貸することにて、政府は年賦に由りて自然的不平等に基因する差益の總てを收納す。前例を再び茲に取れば、生産者の誰たるを問はず、其持參する小麥を總て一ヘクトリットルに付二十切符の割合にて買取る。而して甲級

地の農夫は一ヘクタールの耕地(卽ち三十ヘクトリットルを產する土地)より六百切符の平均收穫を得れども、年々三百切符の賃借料を上納せざるべからず。されど乙級地の農夫は毫も賃借料を上納するを要せず(前例に於て此社會の土地を只甲乙二級と假定したればなり)。而して行政廳は生產費(註)より其收納したる賃貸料を控除したる後總ての小麥を一ヘクトリットル十五切符の割合にて賣るを得るなり。

(註) 茲に謂ゆる生產費は行政廳の買入價格を指す、而して前例に於ける如く甲乙兩級の土地より納入する小麥の總量が同じ場合との假定の下に在るが故に、甲乙兩級地の納入する小麥各一ヘクトリットルの生產費は二十切符なれども、甲は一ヘクトリットル毎に十切符の賃借料を支拂ひ乙は賃借料無きが故に甲乙兩級を通算すれば小麥一ヘクトリットルに付き平均五切符の賃借料を負ふ勘定なり。故に此平均五切符を生產費平均二十切符より控除すれば本文に言ふ如く十五切符となる。

然れども是れ無益なる迂回にして徒らに事を複雜にするものなり、何となれば此方法は別異の各經營に就て勞働の生產力の下に自然の寄與する部分(la part de la nature)を評價するの困難を除去する能はざればなり。而して此玄妙不測の評價は各筆の土地に對する賃借料の每年の計算に向て常に必要なり、何となれば、賃借料をして正當ならしむる爲には之を以自然的諸原因より來る所の總ての不平等を除去し、而かも同時に之をして「土地改良に投ぜられた資本の合體」(卽ち土地と合體)又は「耕作に費されたる資本の助力」に歸し得べき生產の餘剩額に觸れしむることと無きを要すればなり。

茲に又他の方法として擧ぐべきは、土地又は鑛山を個人又は組合(syndicats)に年賦償却の方法に由りて授與すること是なり　然れどもこれ亦多く顧慮を費やすの要なし。蓋し年賦償還が滿了するときは經營者は同時に所有者の資格を兼ぬるが故に地代卽ち土地又は鑛山の自然的優等なる諸條件より生ずる獨占的收入を無償にて得ることゝなるべし。他面社會は最早賃貸料も年賦金も受くることなきが故に消費者をして地代の負擔を免かれしむる能はざるべし。故に此方法に嫌惡せる制度への復歸なり。

以上屢々指摘したる種々の計算上の困難は決して單獨又は最重のものに非ずして、重大なる障碍は別に存す。何ぞや、曰く行政的集產主義 (le collectivisme administratif) の中央集權の原則とジョーレー氏が徒らに和協せんと試む所の組合的社會主義(le socialisme corporatif)の地方分權の原則との間の牴觸是なり。

ジョーレー氏の方式に於ては、最も集中的なる集產制に於ける如く、生產者は需要供給なる自然的調節手段を缺くが故に、一般社會の諸欲望の比較的强度に就ての調査報告を有する所の中央公權の支配を受けざるべからず。此制度は生產及び運輸の諸企業を國家の經營に留保せずして諸自治組合に委任するが故に一種地方分權的の制度として存立するが如しと雖も、是れ唯外觀のみ。各職業集群は其機械の持主及び利用者として、並に其企業の責任管理者として、猶ほ且行政

的公權に從屬するを免かれず、何となれば公權は各集群に向て其社會に提供すべき生產物の性質（即ち種類）及び分量を指定し、斯くして其生產の總てをも指揮すればなり。

且又此方式は其等の條件の下に於て如何に實行せられ得べきかは吾人の了解に苦む所なり。今一の組合（サンディカー）が一大紡績所を起すべく組織せられたりと假定す。組合は有償にて最新型の機械及び原料を用意し、斯くして組合は此等の優れたる生產方便を以てする勞働の特別生產力が其勞働者の提供する實際の勞働時間數より多き枚數の切符を贏ち得べしと豫期す。組合は又其企業の大規模なるに由りて生ずる費用の節約が資本償却及び一般的諸費の控除額を平均額以下に減ずべきを豫期す。然れども此等の豫期は行政廳を考慮の外に措くものなるが故に、若し行政廳が無能惡意又は其他の原因により組合の生產方便に對し不相應に劣れる部分を其生產すべき額として割當てたるときは、組合の總ての豫期は外れて彼の犧牲は無益となるべし。例を以て示せば、臨機應變の獨斷權を賦與せられたる公權は小麥又は甜菜の集約的耕作に向く所の農業組合に對し餘り僅かの註文を爲すか又は他の種類の栽培を命ずるに由りて該農業を衰滅せしむべし。公權は別々の諸產業所（établissements）をして其生產方便物を變更し、及び其人員の數を增減することを除儀なくせしむべき間接の權力を有す。公權は瑣末なる煩累を以て總ての發案及び總ての發明を阻止することあるべし。夫れ斯の如く謂ゆる自治的なる組合事業を行政的專斷に報從せしむるよりは、寧

ろ之を無條件にて國家直營の生産に委任するを可とすべし。勞働者の諸集群の地方分權は外部の權力に由る生産の規制とは兩立せず。分權的になさるゝ工業は若しそれ自身が其生産の支配者に非ざるときは窒息せしめらるべし。是れ實にそれに向て死活の問題なり。

ジョーレー氏の集産主義は慥かに通常の集産主義に勝る。これは經濟的諸任務に就ての過度なる中央集權を幾分か解除し、生産者の發案及び進歩の精神に發出の餘地を與ふる所あり。然れどもこの方式が暫く純然たる行政的集産制と同じ程度に有する所の短所卽ち均衡の諸缺陷及ひ個人的自由の諸制限を度外に措くも、これは亦紛糾せる計算の困難を呈し、其産業的地方分權と生産の行政的規制との間に生ずる所の牴觸に由りて不統一に陷るなり。尙此外に此開放せられたる生産組合の方式が特種の諸批難を惹起するは余輩が後に述ぶる如し。

以上說明せる所に由りて觀れば、若し吾人が組合の組織を維持し、之をして國家の「抑壓的にして且それ自身の力に過重なる經濟的管理」を免かれ、個人を自由にし、浪費を避け及び生産を活潑にすることを得せしめんと欲せば、公權の干涉なく社會の諸欲望に從ひ自治的に生産を整頓する所の價値の機制（un organisme）に復歸するを最も必要となすべきなり。（第三章終り）